



12月の園だより

令和4年12月1日

目黒区立祐天寺保育園園長

風が冷たい日が増え、冬の到来を感じます。園庭では、すっかり色づいた桜の葉が地面を彩り、子どもたちの目を楽しませてくれています。そんな園庭に向かうために、0歳児クラスの子どもたちが玄関にやってきました。靴と靴下を手にしたたり、それを自分の足にあてたりと、気持ちは「早くお靴履いて外にいこうよ」といった感じです。そこへ2歳児クラスの子どもたちも玄関に降りてきました。一人の子が、靴を履こうと座っている0歳児が気に入り、後ろから近づいてそーっと頭に触れると、何だろうと見上げた0歳児とのぞき込む2歳児の視線がぱっちり合いました。ちょっと微笑みあうと嬉しかったのは2歳児の方で、満面の笑みになり「いないないばあ〜」「いないないばあ〜」と大きな動作と共に繰り返していました。0歳児はそれに気づかずに靴に向かってしまったのですが、瞬間的な気持ちの通いと、小さな子どもに向ける優しいまなざし、小さな手でしきりにおこなう“いないないばあ〜”が何とも可愛い一場面でした。小さな子どもを愛おしく思う優しい心の育ちをうれしく思いました。きっとそんな優しい心は日々の大人との気持ちの通いの中で生まれたぬくもりから、育まれるものだと思っています。大切にしていきたいです。

さて、幼児クラスでは、2日の“大きくなったね会”に向け、準備が進んでいます。こちらは子どもたちが仲間と一緒に大好きな物語の世界を楽しみ、劇を作ります。仲間との気持ちの通い合いの中で心をたくさん育まれていくことと思っています。

<12月の行事予定>

大きくなったね会（3・4・5歳児）

5歳児クラス懇談会

中旬 避難訓練・身体測定



<年末年始のお知らせ>

保育園は12月29日（木）から
令和5年1月3日（火）までお休
みになります。

0・1・2歳児のお部屋でクラス毎に「お楽しみ会」をしました。

お楽しみ会は鉄琴による♪きらきら星♪の演奏と、星のパネルシアターから始まりました。0歳児クラスでは何が始まったのだろうとじっと見つめる子や、お人形に興味を持って近づいて手を伸ばして触れようとする姿がありました。1歳児のクラスではお星さまを見て、両手を星に見立ててキラキラさせながら体を揺らしたり歌を口ずさむ姿もあり、どの子も、何か面白そうと興味関心を持っている様子が伺えました。また、大好きな絵本をもとに作った“だるまさんが”のペープサートでは、だるまさんが登場すると「あっ、だるまさんだ」と嬉しそうに声を上げお話を知っている子は、保育士が「だるまさんが…」と話すときに合わせて「だるまさんが どてっ」と倒れたり「だるまさんが びろーん」といって伸びる動きに合わせて真似して喜んでいました。1、2歳児クラスでの「大きなカブ」の人形劇では人形が登場してくるたびに目を輝かせ、身を乗り出して見ていました。身近な保育士が演じるお話を見て、聴いて、楽しんでいました。

短い時間でしたが、お楽しみ会が子どもたちの笑顔が溢れる楽しいひと時となりました。



3・4・5歳児クラスの戸外遊びの様子をお知らせします。

りす組（3歳児）『お家ごっこ』

友達と一緒にタイヤを並べ、一人ひとりが「ここは〇〇のおうち」と言ってタイヤの中に入って遊んでいます。その横ではタイヤの上にマットを載せた部屋を作り「ここは〇〇ちゃんのお部屋ね」と友達同士で話し遊び始める子どももいます。しばらくすると一人の子が「私は猫、にゃんにゃん」と言って猫になって、保育士のところにやってきました。保育士はすかさず「猫さん、お魚のご飯を食べますか」と声をかけてごはんを作ろうとしましたが、やり取りを傍で見ていた子が「私が作る、お母さんだから」とカップに砂や葉を入れてご馳走を作り渡してくれました。すると「ばぶー、ミルクが飲みたいよ」と赤ちゃんになりきっていた子がタイヤの上に気持ち良さそうに寝ながら声をかけました。保育士も赤ちゃん役になって加わると「ミルクあげるよー」と次々にカップを持ってきていて、お世話をしてくれました。子どもたちはそれぞれ経験しているおうちのイメージを重ねながら、自分のなりたい役になって遊びを楽しんでいました。これからも子どものイメージを大切にしながら遊びが広がるように関わっていきます。



うさぎ組（4歳児）『氷鬼』

うさぎ組は、朝から「後で庭で氷鬼しよう」と声を掛け合い、毎日氷鬼を楽しんでいます。誰かが「氷鬼する人、この指とまれ、は一やくしないと切っちゃうぞー」と歌い始めると、子どもたちが次々に集まってきます。元の歌詞の続きは「後から来た人いーれぬい」なのですが、子どもたちは「後から来た人いーれる」と歌い、一緒に遊ぶ仲間が増えるほど楽しさも増すようです。鬼決めの場面では「僕が鬼やりたい」という子がいてすぐに鬼が決まることもあれば、他にも「僕が鬼やるって言った」「僕もやりたい」などと言う子もいて、主張が食い違ったりぶつかったりすることもあります。そのような時には、「じゃあどうしようか」と話していると他の子も話しに加わり「じゃあ鬼決め（歌に合わせて順に指をさして鬼を決める方法）で決めようよ」と提案するなど、少しずつ子ども同士で話してルールを決めながら遊びが継続していくようになりました。解決方法は必ずしも一つではなく、「じゃあ順番こで鬼しよう」「2人で鬼になってもいいんじゃない」など、その時によって様々です。鬼に捕まった子は「誰かたすけてー」と仲間を呼んでタッチしてもらったり、鬼同士も2人で逃げる子を挟み撃ちにしたりし、友達と協力し合って遊ぶことが楽しくなっています。



きりん組（5歳児）『鬼ごっこ～べろべろおばけ～』

公園で木の幹をテーブルに見立てて何人かで食事ごっこをしていたら、一人の子が突然「べろべろ食べちゃおう。べろべろおばけだぞ～」と叫びながら友達を追いかけ始めました。追いかけられた子は「きゃー、こっちこないで～」と言いながら、べろべろおばけに捕まらないよう逃げています。「べろべろおばけが子どもを捕まえるとべろべろ舐める」という鬼ごっこが自然と始まりました。（実際には舐める真似ですが）楽しそうな声を聞きつけて、別の遊びをしていた子どもたちも加わりだしました。べろべろおばけ役の子が両手で頬を押し広げて「べろべろべろ」と舌を出し入れしながら追いかけてくるので、捕まらないよう必死に逃げています。べろべろおばけに捕まった子も次々とべろべろおばけになるので、おばけの人数が増えていきました。そのため最初に決めていたルールが曖昧になってきたので子ども同士で話し合いとなり「氷鬼のように固まる」「10秒じっとしていれば復活できる」等、新たにルールを決めました。「べろべろされたくないよ～、助けて～」「今、助けに行くからね」等と、声をかけ合いながら友達と連携し、楽しんでいました。子どもたちは自分たちで鬼ごっこを発案し、ルールを考えたり、遊んでいく中でルールを進化させたりしながら楽しさを仲間と共有し、仲間関係がさらに深まっています。